

第29号

SSH
Super Science High school

緑高 SSH

令和8年度
夏のST紹介号なり～

2026年10月7日



福島スタディツアー(7月20日～22日)

スタディツアー3日間を通して、福島の震災と原発事故の現実、そして復興の歩みを多面的に学ぶことができました。初日は語り部の証言や請戸小学校の避難行動から、命を守る判断の大切さと地域が受けた深い痛みを知り、災害の教訓を強く感じました。2日目は教育施設や水素エネルギー、廃炉ロボットなどを見学し、復興が新しい価値を生み出す挑戦であることを理解しました。3日目は地域団体の活動やバイオマス発電を学び、住民が未来をつくる主体であることを実感しました。全体を通して、復興とは過去の記憶を受け継ぎながら地域の力で未来を築く継続的な営みであることを深く考える機会になりました。



鳥取スタディツアー(8月3日～5日)

本校生徒3名が鳥取西高等学校の生徒10名とともに、「扇ノ山を源流とする千代川水系のダイナミズム」をテーマとした鳥取スタディツアーに参加しました。本研修では、地学・地質学・生物学の視点から、山陰海岸ジオパークの地形や生態系、そして八頭町のブナ群生林を取り巻く自然環境について学びました。初日は鳥取砂丘ビジターセンターおよび鳥取大学乾燥地研究センターを訪問し、鳥取砂丘の成り立ちや独特の生態系について理解を深めました。2日目は千代川流域でフィールドワークを実施し、上流から下流へとつながる地形や自然環境の変化を観察しました。また、八束ふるりの森では、ブナ群生林や地質・樹木について専門的な講義と現地研修を受けました。最終日は3日間の学びを整理し、プレゼンテーションとして発表しました。

自然環境と人々の暮らしとのつながりに
ついて考える貴重な機会となり、文理を
融合した総合的な科学的知見を養うことが
できました。



釧路スタディツアー(8月18日～20日)

8月18日～20日に釧路スタディツアーを行いました。今回新しくツアーに加えた猛禽類医学研究所への訪問では、怪我をしたオジロワシなどの希少な鳥類の保護や野生復帰に向けたリハビリの現場などについての説明を受けました。鳥が交通事故を回避するためのしくみ作りのために、道具の試作や行動観察を繰り返したと聞き、まさに「探究」が現状を少しずつ変えていくのだと実感しました。湿原探索では手つかずの自然と周囲を埋め尽くすソーラーパネルという構図に環境保全のむずかしさを考えさせられました。

